

紀北家畜保健衛生所

電話 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

電話 0735-58-1481

黒毛和牛繁殖雌牛 ～スムーズな発情回帰のために～

繁殖和牛（母牛）を管理する上で重要な仕事は、大きく2つに分けられます。まずは子牛を無事に出産させること、もう一つは分娩後に人工授精や受精卵移植を行って妊娠させることです。

牛の妊娠期間は約 285 日ですから、1 年 1 産を実現するために母牛には空胎日数としてわずか 80 日程度しか残されていません。産後はなるべく早く牛を回復させ、良い発情を迎えられる状態にしたいものです。しかし、実際は様々な原因によって、産後に予定通り人工授精ができないことがあります。

今回は、分娩後の発情回帰を遅らせないために、分娩前後における母牛管理のポイントをいくつかご紹介します。

1. 分娩前から出来ること

●増し飼いをする

分娩前に栄養が足りないと、産後の卵巣・子宮修復が後回しになり、発情回帰が遅れます。母牛には胎子の発育分まで栄養を加えた「増し飼い」を行いましょう。その方法は、分娩予定日の約 2 か月前から普段の一日分の餌に配合飼料を約 1 kg 加えてあげます。

●ビタミンを与える

牛において、ビタミン A、D および E は、産後の生殖器の機能回復に重要な役割を果たします。ビタミン ADE 剤を分娩の 2 週間前に与えて、産後の発情を助けましょう。過剰投与にならないよう、用法・用量については各商品の添付文書を参考にしてください。

2. 分娩後に出来ること

●餌を増量する

分娩後は母体の回復と泌乳のために十分な栄養が必要です。増し飼い期の量に、さらに配合飼料を約 1 kg プラスして、離乳まで続けましょう。

●駆虫薬を投与する

産後は母牛の免疫が低下しがちです。寄生虫病をしっかりと予防し、母牛の体力を奪う要因を減らしましょう。イベルメクチン製剤は線虫、ダニ、シラミなどを駆除してくれます。産後 1 か月くらいに背中へ塗布しましょう。ブロムフェノホス製剤は、肝蛭（かんでつ）という内部寄生虫を駆除します。産後 1 か月くらいに飲ませましょう。

3. 普段から出来ること

●生菌剤を与える

牛は第 1 胃の細菌叢（いろいろな働きをする菌のバランス）が崩れるとエンドトキシンという毒物ができてしまい、肝臓や生殖器に悪影響を及ぼします。特に、肝臓は解毒や代謝機能を担う重要な臓器です。母牛の健康や繁殖のために、生菌剤を飼料に加えて細菌叢を整えましょう。短期間で効果が出るものではないので、分娩前後にかかわらず、日頃から与え続けることが大切です。

●ミネラル（鈣塩）を設置する

鈣塩には繁殖成績改善などに効果のあるビタミン E やセレンを含むものが市販されています。鈣塩は常に舐めることができるようにしましょう。

これらのポイントを押さえて、分娩後の発情発見に努めていただき、繁殖成績を向上させましょう。詳しくは「熊野牛繁殖雌牛飼養管理マニュアル」を再度ご覧になってください。気になる点や不明な点がありましたら所轄の家畜保健衛生所にご相談ください。